

体温検知アプリケーションで複数のカメラを一括管理

カメラ映像表示
「PANDA」のカメラ映像を表示。サーマルカメラ（右）、カラーカメラ（左）の両方の映像を表示する

体温計測履歴表示
「PANDA」で計測した人物の顔画像と体温情報を表示。登録者と顔認証した人物の顔画像には、登録者名が表示される（下画像の中央の円内の数値は認証率）

高体温アラート
体温が高い人物の検知アラートを表示

■運用例

- ① 来店者を検知
- ② 顔の温度を計測
- ③ 発熱のある来店者を警告・通知
- ④ 接客対応

計測誤差が±0.3度という高い精度を持つ。また、左目のカラーカメラでは人の顔を検知する機能を持つほか、スタッフなど固定された人数の管理に適した顔認証機能も搭載。例えばスタッフの顔を予め登録しておくことで、「誰が」「いつ」「体温は何度だったのか」という体調管理を可能にする。スタッフの日頃の感染予防に役立つが、仮に発熱の疑いを検知してもその場で自宅療養や自宅待機を促すきっかけをつくることができ、感染拡大する中で店舗運営の保全が見込める。

このカメラは業界向けにはシステムエイ・ブイが取り扱っているが、世界的にみると、ここ最近の新型コロナウイルスの感染拡大で各国に100万台超が一気に導入されたという。非接触で精度の高い検温ができる上に、同時に複数人を検温する利便性、さらにはカメラ撮影の抵抗感を和らげる可愛らしい形状も世界各国でヒットしている要因になっているようだ。

体温検知に特化したシステム構成 感染防止に向けた来店者管理も省力化

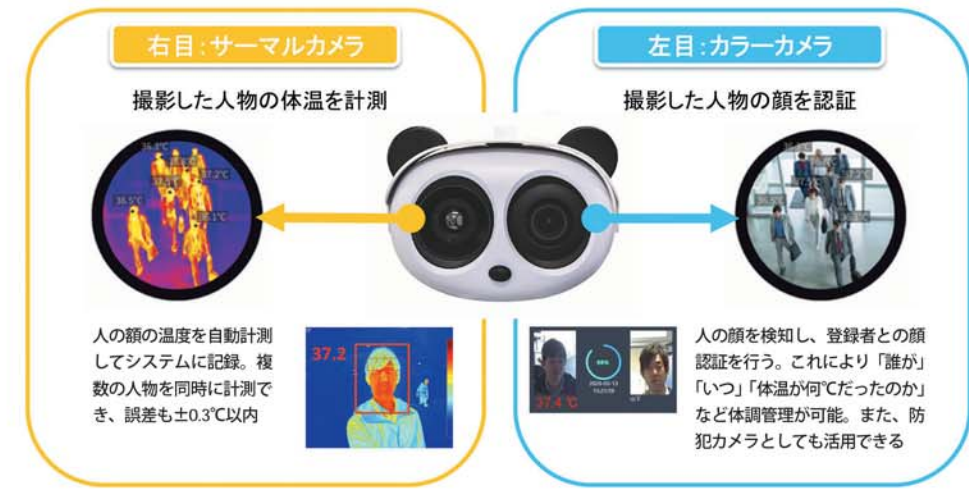
「PANDA」カメラのシステム運用については、店舗や事務所の出入口にカメラを設置。中継装置のスイッチングハブ、体温検知ユニット、体温検知アプリケーションで構成されている。右目はサーマルカメラ、左目はカラーカメラ。右目は人の温度を自動計測してシステムに記録。複数の人物を同時に計測でき、誤差も±0.3℃以内。

左目は人の顔を検知し、登録者との顔認証を行う。これにより「誰が」「いつ」「体温が何℃だったのか」など体調管理が可能。また、防犯カメラとしても活用できる。

「PANDA」カメラは、新型コロナウイルスの感染拡大が進む現状のニーズにフィットしたシステム構成により、多機能搭載型のカメラシステムと比較して導入しやすいところも特徴のひとつとなっている。

人物に接触することなく検温可能！

体温検知 サーマルカメラ PANDA



新型コロナウイルスの感染拡大の防止対策で来店者の検温チェックを行うホールが増えている。多くの場合、スタッフが検温センサーを使って来店者一人ひとりの体温をチェックし、発熱があれば退店を促すといった方法がとられているが、検温チェックのために常時スタッフを出入口付近に張り付けておくのは、現在の人手不足の中ではやはり難しいものがある。

そこで、新型コロナウイルス感染防止のための検温を自動化する体温検知サーマルカメラが注目されている。システムエイ・ブイの「PANDA」カメラがそれだ。

右目がサーマルカメラ、左目はカラーカメラになっており、右目のサーマルカメラは人の体温計測に特化した仕様。通常のサーマルカメラとは異なるものになっている。同時に複数人を同時に検温することができ、最先端技術の採用により

世界で注目の体温検知サーマルカメラ 非接触の自動「検温」で感染拡大を抑止

新型コロナウイルスの感染対策に威力を発揮 自動的に複数人の「検温」を実現